

小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド ～ 親子で歩むリスク回避の4つのステップ(前編) ～ 講師用補助資料

教材 URL: <http://www.child-safenet.jp/material/>

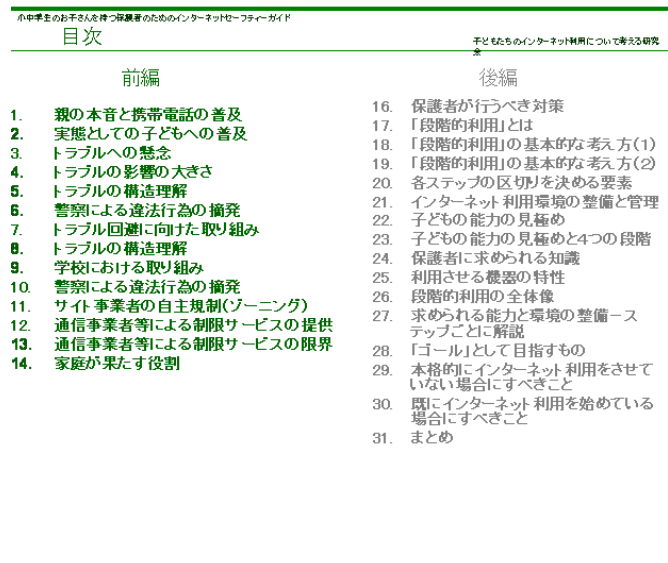
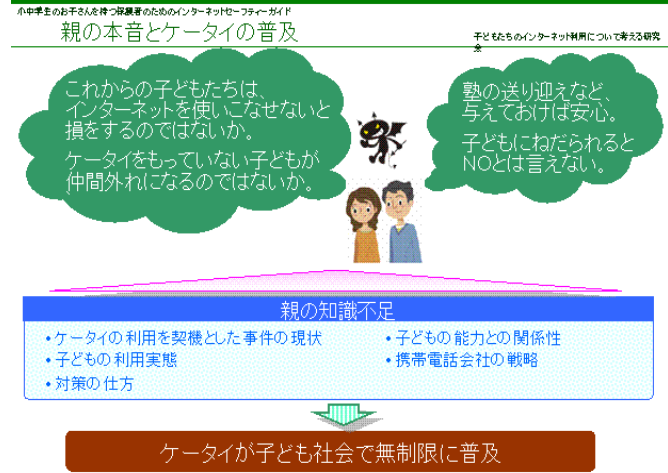
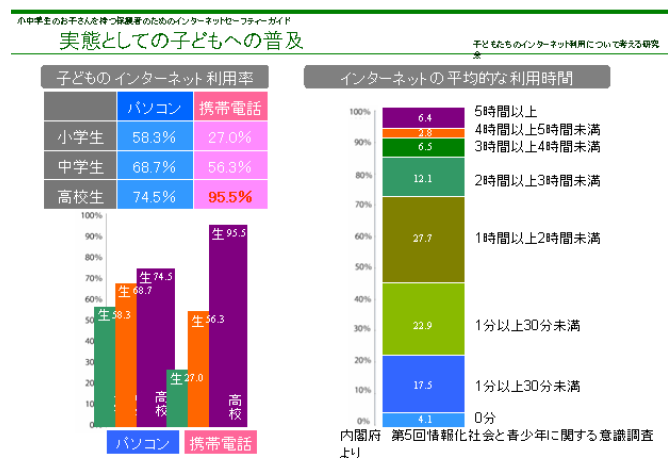
【インターネットセーフティガイドの特徴】

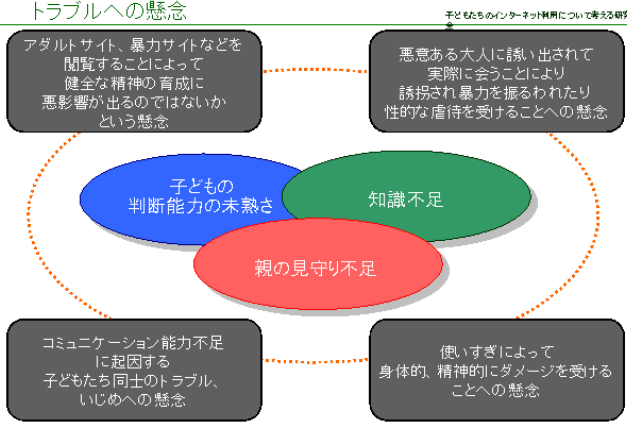
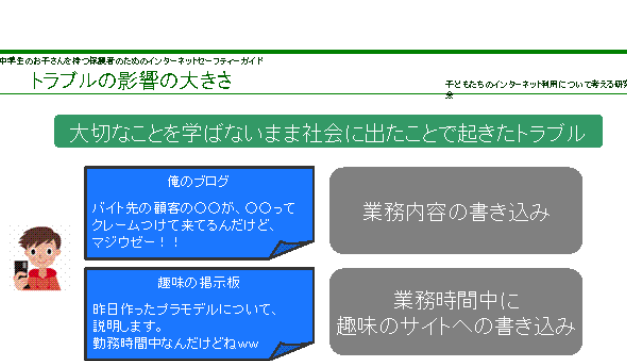
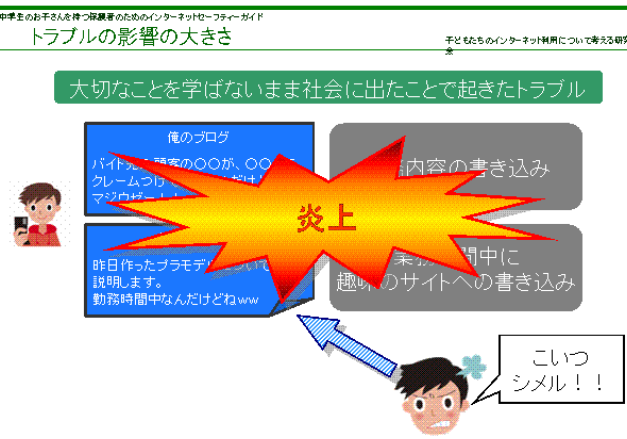
- ✓ 本教材は、保護者を対象とした1時間半程度の入門的な講習での利用を想定して構成されています。
- ✓ 保護者のためのセーフティガイドは、小中学生のお子さんを持つ保護者の方向け(前後編)と、中学生のお子さんを持つ保護者の方向けに、それぞれ事例やサービスの概要等を織り交ぜながら、リスク回避の方法と家庭内での対策について解説しています。受講者の事前の理解度に合致した講習レベルに、アレンジしてご利用ください。
- ✓ 事件事故の例や個別サイトのそれぞれの特徴は、あくまでも保護者の注意を惹き、理解を促進することを目的として紹介しています。事例そのものの紹介にとらわれすぎず、根本にあるリスク回避の基本的な考え方や、子どもとの対話の重要性についてもしっかりと伝えていただくことが講習実施の際のポイントとなります。

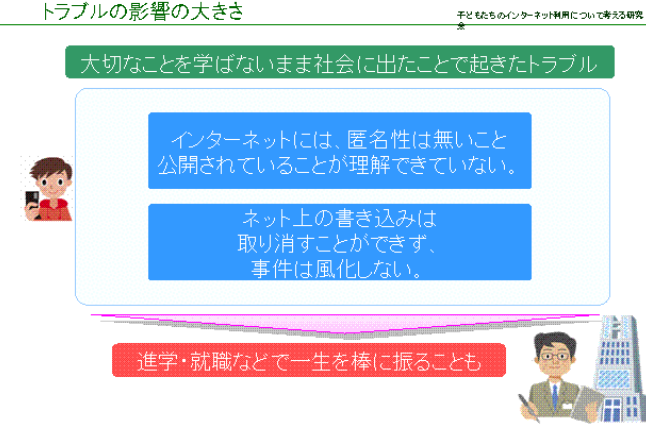


【本教材、補助資料の使い方】

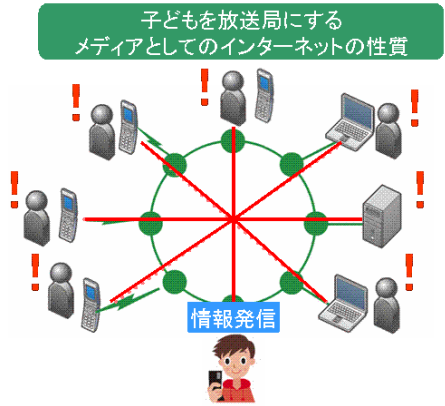
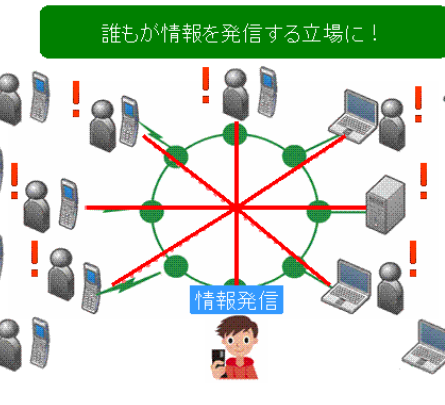

- ✓ 本教材は PDF 形式です。印刷してご利用ください。

画面イメージ	教材のポイント
 <p>小中学生のお子さんを持つ保護者のための インターネットセーフティガイド ～ 親子で歩むリスク回避の4つのステップ ～ 前編</p> <p>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</p>	




画面イメージ	教材のポイント																														
																															
 <p>親の本音とケータイの普及</p> <p>これからの子どもたちは、インターネットを使いこなせないと損をするのではないかと。ケータイを持っていない子どもが仲間外れになるのではないかと。</p> <p>塾の送り迎えなど、与えておけば安心。子どもにねだられるとNOとは言えない。</p> <p>親の知識不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ケータイの利用を契機とした事件の現状 子どもの能力との関係性 子どもの利用実態 携帯電話会社の戦略 対策の仕方 <p>ケータイが子ども社会で無制限に普及</p>	<p>知識や情報の重要性が増してくる現代社会では、インターネットが社会に与えるプラス面への期待が大きい。個人個人の発信・受信能力を、インターネット以前と比べて飛躍的に拡大することも容易に理解できる。漠然とした保護者の本音としては、そうした期待(と、それに残り残されることについての不安)があるからこそ、子どもにねだられれば、深く考えることもなく「使わせて」いる実態がある。</p> <p>この背景には、携帯電話の利用を契機とした事件の現状や子どもの利用実態等に関する保護者の知識不足がある。携帯電話が子ども社会で無制限に普及していることを確認する。</p>																														
 <p>実態としての子どもへの普及</p> <p>子どものインターネット利用率</p> <table border="1"> <tr> <th>学年</th> <th>パソコン</th> <th>携帯電話</th> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>58.3%</td> <td>27.0%</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>68.7%</td> <td>56.3%</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>74.5%</td> <td>95.5%</td> </tr> </table> <p>インターネットの平均的な利用時間</p> <table border="1"> <tr> <th>利用時間</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>5時間以上</td> <td>6.4%</td> </tr> <tr> <td>4時間以上5時間未満</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>3時間以上4時間未満</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>2時間以上3時間未満</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>1時間以上2時間未満</td> <td>27.7%</td> </tr> <tr> <td>1分以上30分未満</td> <td>22.9%</td> </tr> <tr> <td>1分以上30分未満</td> <td>17.5%</td> </tr> <tr> <td>0分</td> <td>4.1%</td> </tr> </table> <p>内閣府 第5回情報化社会と青少年に関する意識調査より</p>	学年	パソコン	携帯電話	小学生	58.3%	27.0%	中学生	68.7%	56.3%	高校生	74.5%	95.5%	利用時間	割合	5時間以上	6.4%	4時間以上5時間未満	2.8%	3時間以上4時間未満	6.5%	2時間以上3時間未満	12.1%	1時間以上2時間未満	27.7%	1分以上30分未満	22.9%	1分以上30分未満	17.5%	0分	4.1%	<p>子どもたちへのインターネット普及状況について、定量的に再確認する。ただし全国統計である点には注意が必要。県単位で見ると、特に携帯電話の普及ペースは大きく異なり、「中学デビュー」「高校デビュー」が標準的な地域も多い。</p> <p>また、クラスなどの単位で携帯電話の所持率が20%を超えると、その後は普及が一気に進み、同時に利用トラブルも増えるという観察結果も報告されている。</p>
学年	パソコン	携帯電話																													
小学生	58.3%	27.0%																													
中学生	68.7%	56.3%																													
高校生	74.5%	95.5%																													
利用時間	割合																														
5時間以上	6.4%																														
4時間以上5時間未満	2.8%																														
3時間以上4時間未満	6.5%																														
2時間以上3時間未満	12.1%																														
1時間以上2時間未満	27.7%																														
1分以上30分未満	22.9%																														
1分以上30分未満	17.5%																														
0分	4.1%																														

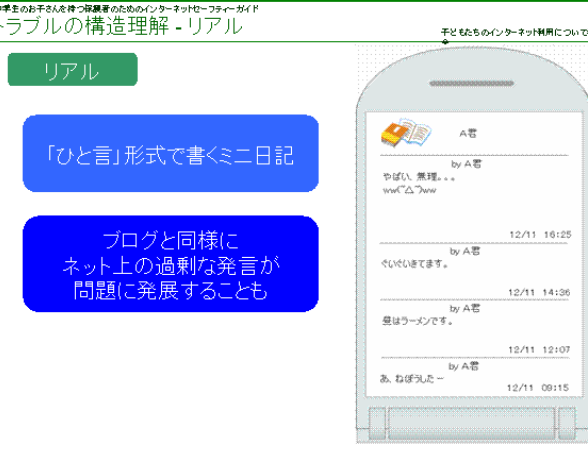


画面イメージ	教材のポイント
	<p>インターネットを利用させた場合の懸念としては、以下の例が挙げられる。(1)不適切なサイトを閲覧することによって、子どもの健全な精神の育成に悪影響が出るのではないかと。(2)悪意ある大人に誘い出されることによって誘拐や性的な虐待を受けるのではないかと。(3)子ども同士トラブルやいじめに繋がるのではないかと。(4)ネット依存になってしまうのではないかと。</p> <p>これらは、(a)子どもの判断能力の未熟さ、(b)知識不足、(c)親の見守り不足などが原因となっている。</p>
	<p>「親元を離れるまでインターネットを使わせない」という方針を採用する例もあるが、インターネットのトラブル回避能力は、年齢が進むとともに自然に身につくものではない。</p> <p>また残念ながら、現時点では、適切なネット利用教育を学校で受けることも期待できない。</p> <p>実際に、大学生や社会人になってから、自らの不用意・不適切な発信が原因で取り返しのつかないトラブルを起こす例が後を絶たない。</p> <p>インターネット利用に必要な能力は、親元にいる間に各家庭内で獲得させるほうがその子どもの将来のためになるのではないかと。</p>
	<p>インターネット上に書き込んだ内容が、不用意、不適切なものであったため子ども同士のケンカに発展して、心に大きな傷を残すことや、アルバイト先の業務内容を書き込んだり、勤務時間中に趣味のサイトに書き込んだことが発覚して、勤務先から解雇されたケースもある。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>インターネットを介したトラブルは、それ以外のものと異なり、取り消すことが難しく、またトラブル自体も風化しにくい特徴を持つ。</p> <p>学生時代に起こしたインターネットネットトラブルが原因となり、進学や就職の際に不利益を被ってしまう、という事態も考えられる。</p>
	<p>トラブルの影響の大きさを示すもう一つの事例として、「モデル募集」の掲示板を例に挙げる。</p> <p>インターネットの利用は他人と関わり合う可能性を飛躍的に拡大させるが、ネットの関わり合いを契機としたリアル世界の出会いには、大きな危険がはらんでいる。</p> <p>子どもにとっては、軽い小遣い稼ぎという感覚であるが、背後にいる大人は悪意をもって、巧みな言葉を用いて子どもを誘い出し、ワイセツな行為に及んだり、裸の写真を撮影して、インターネット上に画像を投稿したりと、子どもの生命、身体、心に大きな傷を残すことがある。</p>
	<p>インターネットを利用することは、これらの大きな危険と隣り合わせであることについて、子どもにインターネット接続環境を与える保護者がまずしっかりと理解する必要がある。</p>


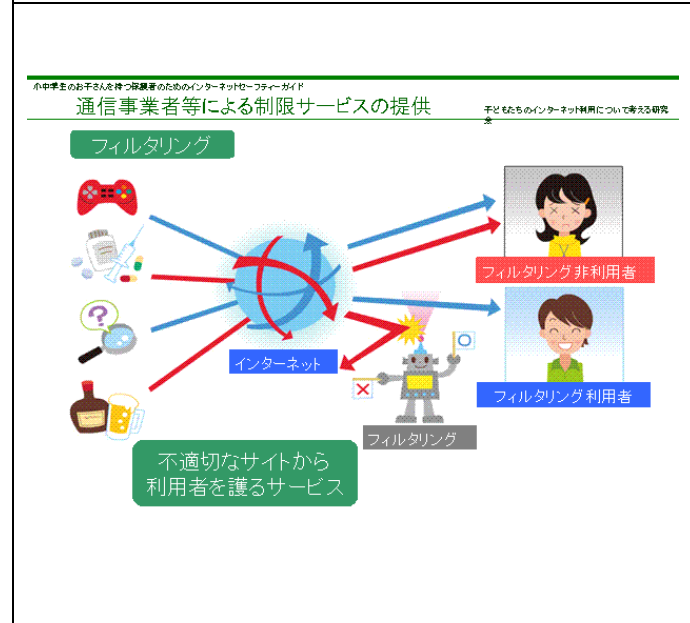
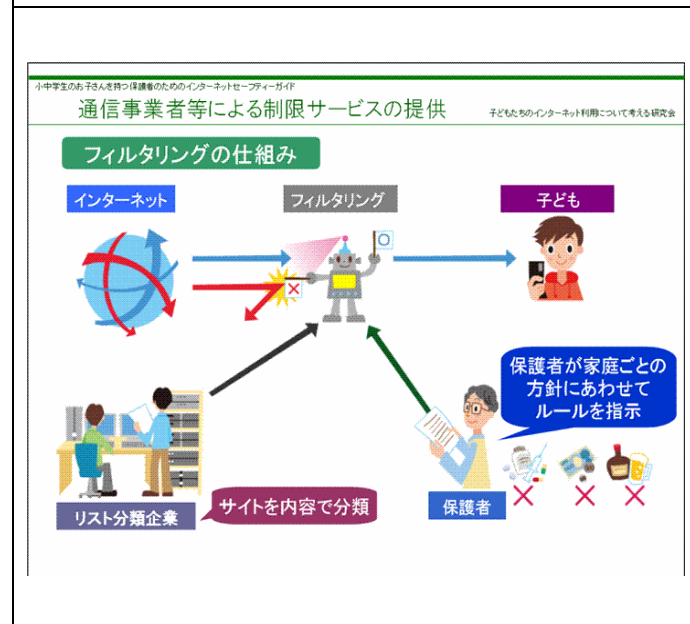
画面イメージ	教材のポイント
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解</p> <p>子どもを放送局にする メディアとしてのインターネットの性質</p>  <p>情報発信</p>	<p>インターネットのトラブルは二種類に分けると理解・把握しやすい。一つは従来「有害図書」「有害番組」と言われてきたような、アダルト・薬物・暴力的表現といった、子どもにはふさわしくないコンテンツや、ゲームなど中毒性・依存性が高いコンテンツによる悪影響。もう一つが新しいトラブルとして「相互発信」「参加」「交流」が可能というメディアとしての特徴に起因するもの。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解</p> <p>誰もが情報を発信する立場に！</p>  <p>情報発信</p>	<p>いわば子ども一人一人が放送局になってしまうわけで、不適切な書き込みが取り消せないこと、誰もが見ていることをしっかりと理解して使わないといけな。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解</p> <p>子どもにも簡単に利用できる様々なサービス</p>  <p>子ども自身が発信し、交流することができる</p> <p>その中でトラブルが起こる</p> <p>見目は違っても、問題点は全て共通</p> <p>いずれも子どもにブレーキをかける人のいない構造</p>	<p>放送局になるための具体的なサービスも豊富だが、ほとんどのサービスでは誰も子どもにブレーキをかける人がいない。以下では、放送局になるためのサービスとして、「掲示板」「ブログ」「リアル」「交流サイト」と、その危険性について説明する。</p> <p>これらのサービスは、子ども自身が情報を発信し、交流することが出来るものであり、見た目の印象はそれぞれ異なるサービスのように見えるが、問題点は共通している。</p> <p>子ども自身がブレーキをかけられるようにならなければいけない。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - 掲示板</p> <p>掲示板</p> <p>腕試しやいたづら目的で過激なことを書き込んでしまう</p> 	<p>男子生徒が巻き込まれることが多い「腕試しやイタズラ心によるネット犯罪」トラブルの実際について解説。ここで取り扱っている事例は、ネット上に電車の爆破予告の書き込みを行い、書類送検された男子高校生のケースである。1)インターネットに本当の意味での匿名性はないこと、2)たとえ中高生でも被害者ではなく加害者になりうることを保護者にも知ってもらおう。</p> <p>このようなイタズラ予告は、関係機関サイトの掲示板への書き込みやメール送信、「2ちゃんねる」に代表される、匿名掲示板、SNS サイトの日記上などで行われる例が多くなっている。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - 掲示板</p> <p>掲示板</p> <p>軽い気持ちの書き込みが、公共機関をストップさせ、世間を混乱させる事態に。</p> <p>威力業務妨害</p> <p>○被害は○日、威力業務妨害の疑いで高校二年の男子生徒を書類送検した。……</p> <p>調べでは、男子生徒は今年×月×日午後11時ごろ、ネット上の掲示板に「○月○日○駅で電車を爆破してやる。」と書き込み、電車の運行を一部停止させるなどした疑い。</p> 	<p>名前もメールアドレスなどの連絡先も記載しない、一見匿名性の高いネット上の掲示板だが、書き込みを行った場合「アクセスログ」が必ず記録されている。予告などの行為が悪質、かつ事件性がないとは言い切れないと判断された場合、警察から管理者および管理会社にアクセスログの開示要請が行われ、書き込みを行った個人を特定していくことになる。</p> <p>このような事例は、2008年後半から、ニュースで何度も大きく取り上げられ、記憶に残っている方も多いため、以前は友人間の口論、ケンカとして起こっていたトラブルが、インターネットを媒介して、知人間でも、そうでない人間の間でも起きようになってきている。子どもたちは、こうしたブログやプロフィールでの自分自身の書き込みの影響範囲を実際よりも狭く見積もりがちのため、保護者による適切なガイドが欠かせない。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - プロフ(プロフィール)</p> <p>プロフィール</p> <p>誰でも10分で公開できる自己紹介サービス</p> <p>掲示板機能も付属</p> <p>顔写真や氏名、連絡先など個人情報を書きすぎ易い構造</p> 	<p>プロフィールサイト(プロフ)の問題点としては、不用意な個人情報の公開や、サイトに付属している掲示板やメール機能による利用者間交流によるトラブルが挙げられる。</p> <p>プロフィールの人気度を訪問者数であらわすランキングを競うために、露出の高い写真を自ら掲載するケースも見られる。顔写真など、掲載した画像をわいせつな雑誌などに転用されてしまうという被害も発生している。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - プロフ(プロフィール)</p>  <p>プロフ</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者間交流が事件に発展する例も、 1. 誘い出し(出会い) 2. ケンカ 顔写真がわいせつな雑誌等に転用されるなど、他の被害形態も発生 	<p>多くのプロフサイトに備わっているゲストブック機能とは、プロフィールを閲覧した人が自由に書き込むことができる自己紹介掲示板のこと。ここに書き込まれた見知らぬ人からのメッセージをきっかけに、利用者間のコミュニケーションが行われている。また出会い系など不適切なサイトへのリンクが書き込まれることもある。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - ブログ</p>  <p>ブログ</p> <p>日々の出来事を経る日記型サービス</p>	<p>インターネットの掲示板やブログなどで、普段よりも過激な発言を行ったことが引き金となった、現実世界でのトラブル事例を紹介していく。1)インターネットは開かれている世界であり、誰が見ているかわからないこと、2)そこでの発言には常に責任が求められることを保護者にも知ってもらう。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - ブログ</p>  <p>ブログ</p> <p>ネット上の発言が発端となり、傷害事件に発展するケースも。</p>	<p>ブログの記事に、反論の内容のコメントが書き込まれました。このケースの場合、友人や学校関係者に自分のブログのURLを公開し、コミュニケーションツールとして広く利用していたため、個人が簡単に特定できたケースを想定しているが、過度に個人情報に掲載したため、内容から個人を推測できるケースも少なくない。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - リアル</p>  <p>リアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ひと言」形式で書くミニ日記 ブログと同様にネット上の過剰な発言が問題に発展することも 	<p>ブログと同様の日記型のサービスにリアルと呼ばれるものがある。一日の出来事をまとめて投稿するブログに対して、リアルの場合は、今しがた起こった出来事や、思いついた言葉などをリアルタイムに短く投稿する点に特徴がある。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - 交流サイト</p>  <p>交流サイト</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームや着メロなどが無料で楽しめる 日記やプロフィール機能が付属 会員専用メール機能の提供 	<p>多くの会員登録制交流(SNS:ソーシャルネットワークサービス)サイトでは、ゲームや携帯小説、本人の似顔絵をイラストにした着せ替えサービス「アバター」などが無料で楽しめる。中高校生の半数以上が利用したことがあり、サイト内メール機能で会員同士での直接連絡も可能である。昼夜を問わず利用し続けるなど「はまる」子どもも多く、子どもを夢中にさせる中毒性も懸念されている。中高生に人気の大手サイトでも、サイト上で知り合った悪意のある大人による誘拐や、殺人事件などの「出会いの場」として利用された例が報じられている。</p>
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド トラブルの構造理解 - 交流サイト</p>  <p>交流サイト</p> <ul style="list-style-type: none"> いたすらなど不適切な書き込みによるトラブル サイト利用者同士が実際に出会い性的被害に遭うことや子どもが殺された事件も 	<p>これは、交流サイト内に作ることができる、自分専用のページ。ここに表示させる自分の分身となる画像がアバターと呼ばれている。イメージにも記載されているように、メールや日記、写真のアップロード機能なども提供されている。大人の目からは無料ゲームが目玉の「普通の」サイトに見えても、こうした会員同士の交流を促進する仕組みが多数提供されているため、オンラインでのコミュニケーションスキルや身を守る力が習得できていない子どもの利用には一定程度のリスクがあることを、保護者も知っている必要がある。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>もちろんこうしたリスクに対して、社会としての取り組みも進んでいる。学校における情報モラル教育に加え、警察ではネット上の犯罪を捕捉し摘発する能力を向上させるだけでなく、初期段階での利用者からの相談に乗るなどの努力を続けている。一部のサイト事業者では、大人と子どものサイト内の動線を分ける「ゾーニング」という自主規制を開始。通信事業者では、各種の制限サービスを無料または安価で提供している。</p>
	<p>学校における取り組みとしては、情報モラル教育の実施や携帯電話の学校への持込禁止などが挙げられる。</p>
	<p>警察による違法行為の摘発の流れについての説明。 事件発生時の通報を受けた警察は、必要があると判断を行った場合、捜査令状などの正規の手続きを経て、そのサイトの管理者やサービスプロバイダに、アクセスログなど発信者情報の開示を請求し、そのログを解析することにより、発信元のコンピュータや携帯電話端末を特定していく。このようなプロセスを経て、爆破などの犯行予告や、誹謗中傷書き込み、不正アクセスなどを検挙するだけでなく、時には自殺予告の書き込みに対する対応などで、事件や犯罪を未然に防ぐこともある。 相手の姿が見えず、匿名性が高いと思われるがちなインターネットの世界だが、アクセスログと呼ばれる利用者情報が一定期間記録されているため、むしろ現実世界よりも「悪事はバレやすい」。しかし子どもに限らず「インターネットでは個人が特定できない」という誤解が、様々なトラブルの素地を作っていることに、保護者も気づく必要がある。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>サイト事業者の自主規制として、子どもに対しては、一定の機能が制限されている子ども向けのサービスを提供するという取組(ゾーニング)が行われている。 サイト事業者は、登録年齢やフィルタリング設定の有無などから、大人か子どもを区別し、子どもと判断された場合には、プロフィールの公開機能やメッセージ機能、友だち検索機能などを制限することで、大人が子どもとコンタクトを取ることを防止しようとする試みである。</p>
	<p>通信事業等による制限サービスの提供には、保護者のチェックを、仕組みとして支援するフィルタリングサービスがある。 インターネットでは多種多様な情報が発信されているだけでなく、放送や出版とは異なり、その伝達経路上での規制が極めて小さいのが特徴。そこで、何らかの懸念がある情報への接触については、受け手側で意識的に回避する必要がある。フィルタリングは元々、その選択的な受信を支援する技術として存在している。</p>
	<p>多くのフィルタリングシステムでは、様々なサイトを主な懸念事項ごとに分類したリストを利用している。リストは専門企業が作成して、毎日最新の状態に更新し続けている。保護者は、用意された分類項目の中から、その家庭として不要と考えるものをルールとして指示しておくことで、子どもがそのルールに該当するサイトへアクセスしようとする時、フィルタリングシステムが自動的に閲覧を制限する。 ルールは家庭ごとに最も望ましいものをそれぞれの家庭で決定することが基本。また子どもの年齢に合わせて、複数のルールを使い分けることもできる。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>しかし、フィルタリングは万能ではない。 あくまでも保護者が子どものインターネット利用を見守り、サイトの内容をチェックする作業の代理でしかなく、保護者の指示以上のことは実現できないもの。また、受信や閲覧の際の選択は得意だが、利用者(子ども)が発信する内容を判断させることは難しく、フィルタリングに頼るだけでなく、子ども自身の情報判別の力や、発信時のリスク回避能力が必要不可欠。</p>
	<p>以上の取り組みが行われているが、完全なトラブル解決は期待できない。今後は学校でも、情報モラル教育が小学校から高校までそれぞれの段階に応じて組み入れられるようになっていく。しかし、子どもたちの実態として、学校の外での利用時間の方がはるかに長いことや、パソコンや携帯電話をどのように与えるのかは各家庭の保護者次第であること、また子どもごとにインターネット利用能力が大きく異なることなどから、学校や先生に任せきりにはできず、トラブル防止の教育において各家庭が果たす役割は大きい。</p>
	<p>それでは、家庭において保護者が行うべきこととは何か。それは、子どもの能力に合わせた使い方を検討することが求められる。 詳細は『～親子で歩むリスク回避の4つのステップ～ 後編～』に続く。 教材 URL: http://www.child-safenet.jp/material/</p>

画面イメージ	教材のポイント